

文化財めぐり

遺跡からみた
江戸時代の長崎と教会

発行日 平成16年5月28日
発行所 長崎市魚の町5-1
長崎市教育委員会
生涯学習部文化財課
TEL 829-1193



勝山町遺跡で発見された石畳(教会時代)

日時 平成16年5月30日(日)10:00~12:00
コース 江戸町公園~大音寺坂~万才町遺跡~興善町遺跡~
サン・フランシスコ教会跡~
サント・ドミンゴ教会跡資料館(解散)
主催 長崎市教育委員会
講師 長崎市教育委員会文化財課学芸員 田中 学

岬の教会

正式な名称は「被昇天のサンタ・マリア教会」といいます。1601年(慶長6)に献堂式がなされ、1603年(慶長8)には時計塔も建ちました。キリスト教の迫害が強まるなか、次第に長崎のキリシタンの中心的存在となりました。

「海の方から見ればこの建物は高く美しい」と当時の神父からも絶賛されたこの教会は、長崎の他の教会と同じく1614年(慶長19)に破壊されました。

深堀騒動

1700年(元禄13)12月19日、大音寺坂において深堀家家臣、深堀三右衛門と芝原武右衛門の二人が高木彦右衛門貞親の仲間との口論をきっかけに、藩邸に押入れ、大小を奪われる屈辱を受けます。

翌日、当事者2名は加勢の深堀藩士と共に総勢21名で浜町屋敷を襲撃、仲間の主人である高木貞親を殺害しました。討入後すぐに三右衛門は高木屋敷の玄関前で切腹、武右衛門も帰還中の浜町橋で切腹を遂げます。

翌年、応援した19人の内10人が切腹、9人が五島各地に流罪、貞親の子貞尤は長崎追放という処分が下され、深堀騒動は終結しました。

町年寄高木家(勘左衛門系)

江戸時代の長崎の町では、奉行の支配の下、地役人が行政を処理していました。この地役人のトップが町年寄です。最初は「頭人」と呼ばれていましたが、江戸時代直前の1592年(文禄1)に「町年寄」と改称され、高木勘左衛門忠雄ほか4名が任命されました。

3代作右衛門宗能から御用物役という役職を得て、5代宗音のとき町年寄を一族の正信に、御用物役を弟の宗輔に譲ります。この御用物役宗輔の家系から、やがて代官職を世襲する、作右衛門忠興が生まれました。なお初代忠雄、2代忠次は皓台寺後山に葬られましたが、3代以降は本蓮寺の高木家墓地(市指定史跡)に葬られています。

町年寄高木家(宮内左衛門系)

最初の町年寄の一人、高木忠雄に宮内左衛門宗重という兄がいました。宗重の家系も、2代重任から町年寄に任命され、高木家は2家ともに町年寄を輩出することになります。その後、5代彦右衛門貞親のとき、勘左衛門系の宗音が勝山町に屋敷替えしたので、貞親は宗音の浜町屋敷を賜りました。

貞親は町年寄から代物替会所頭人兼武具預役に出世し、帯刀も許されるほど権勢を振りましたが、

1700年(元禄13)深堀騒動において、浜町屋敷の中で殺害されました。息子の貞尤は騒乱時に逃亡していたため、翌年長崎追放という処分をうけてしまいます。これにより勘左衛門系の高木家は断絶します。

ミゼリコルディアの教会(万才町遺跡)

ミゼリコルディアとは当時いくつもあったキリスト教会の部会の一つです。日本語では「慈悲」などに訳されています。慈善活動を中心におこなう組でした。1583年(天正11)頃に長崎ではじまり、教会は1584年に建てられました。教会は最初小さなものだったようで、1608年(慶長13)に寄付を募り新築されました。この教会は1619年(元和5)に破壊され、翌年には大音寺が建てられました。大音寺が移転した後は、染物屋松尾氏が住みました。

1991年(平成3)、長崎市教育委員会が発掘調査を行い、江戸時代の陶磁器などのほか、聖ペテロのメダイが出土しました。

興善町遺跡

興善町は末次平蔵政直の父、末次興善が建てたという謂われからその名が付いています。興善町ではこれまで3地点で発掘調査があり、それらすべてが江戸時代「新町」と呼ばれる町割に属していました。

発掘調査の結果、江戸時代の陶磁器や金属製品などが出土しました。そのほか長崎開港以前に遡る可能性をもつ焼き物や石製品が発見されています。

サン・フランシスコ教会と桜町牢屋

1611年(慶長16)から1614年(慶長19)まで建設が続いた教会でしたが、完成した同年の11月には破壊されました。その跡地には牢屋がつくられ、主にキリシタンが収監されました。

サント・ドミンゴ教会(勝山町遺跡)

1602年(慶長7)から甌島(現、鹿児島県下甌村)へ上陸後、京泊(現、鹿児島県川内市)へ教会を移したドミニコ会のモラーレス神父は、薩摩の領主島津氏から迫害を受けました。そこで江戸へ出て徳川家康に申し出て、教会を長崎に建てる許可を得ました。土地を提供したのは村山等安でした。教会は1609年(慶長14)に建てられました。

しかし禁教令の結果、1614年(慶長19)に破壊され、村山等安の処刑以降、跡地には末次代官屋敷が建ちました。また1676年(延宝4)の末次家断絶以降は、御用物役高木家が屋敷を構えました。明治維新後、代官職は廃止となり、1870年(明治3)からは嬰兒保

育所、1873年(明治6)年には第一番小学・向明学校となり、翌年には勝山小学校と改称されました。

近年、小学校の統廃合に伴い、校舎が新設されることになり、2000年(平成12)から2002年(平成14)まで、長崎市教育委員会が新設に先立ち発掘調査をしました。この「勝山町遺跡」からは、先に述べた教会の時代、末次屋敷の時代、高木屋敷の時代を示す、江戸時代の豊富な歴史資料が出土しました。

これらの資料を展示公開する「サント・ドミンゴ教会跡資料館」は、2004年(平成16)3月27日に開館し、教会時代の長崎の一幕と、勝山町遺跡の歴史を伝えています。

村山等安

生年や出生地、身分については、諸説あるため不明な点が多いのですが、1587年(天正15年)頃には長崎の金屋町に住んでいたようです。気転が利き商才があったため、豊臣秀吉の寵を受けて1592年(文禄1)長崎代官に任命されました。

1609年(慶長14)には勝山町にある自分の土地を提供して、ドミニコ会のサント・ドミンゴ教会建設に大きく貢献します。また1614年(慶長19)の4、5月には長崎の町中で、信仰を表明するキリシタンの行列が、何回も行進しましたが、等安一家はこの行列に参加しています。

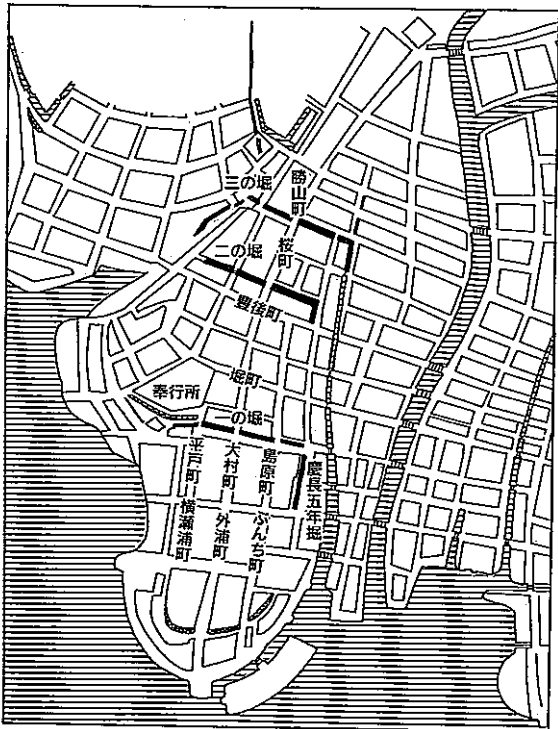
こうしたキリスト教(ドミニコ会)への傾倒は、結果的に等安一族の命取りとなり、1619年(元和5)に末次平蔵政直の訴追により等安は江戸で斬首されます。その遺族のほとんども、1622年(元和8)の大殉教までに処刑されました。

末次平蔵政直

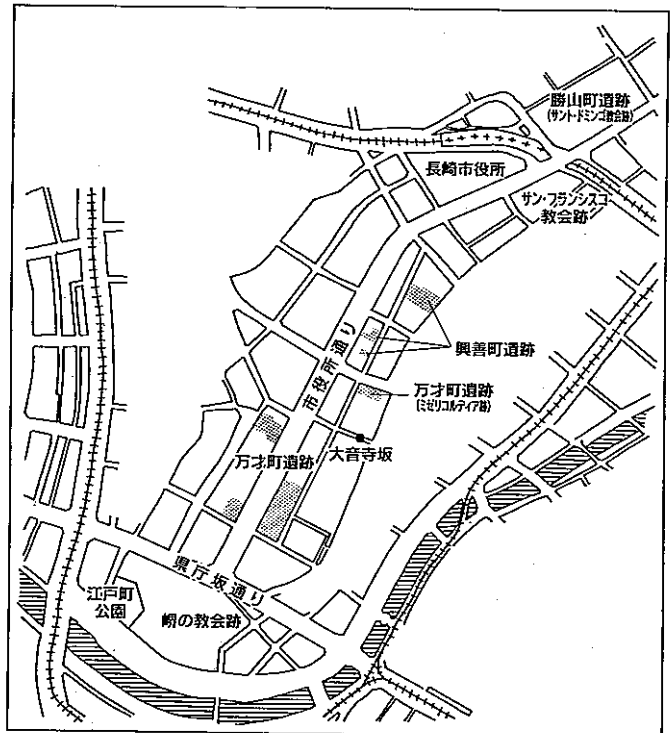
生年は不明ですが、博多の生まれであると推測されています。末次家は博多商人の中でも抜きん出た存在であり、政直は朱印船貿易家として富を築きました。

やがて長崎代官の地位を狙いはじめた政直は1619年(元和4)キリシタン信仰を主な理由として、村山等安を訴追し、成功します。もともと政直もキリシタンでしたが、この頃には既に棄教していました。等安の処刑後、政直は代官の地位とサント・ドミンゴ教会跡地を獲得し、屋敷を建てました。

その後、政直は1628年(寛永5)オランダと争いを起こし(浜田弥兵衛事件)、その責を問われ江戸に召喚、2年後に獄死します。以降も末次家は繁栄を極めますが、4代茂朝のときカンボジアとの密貿易が発覚して、財産没収ならびに流罪という処分を受け、長崎代官末次家は断絶しました。没収時の財産は総額約100万両ともいわれ、50~60万石の大名も及ばないほどでした。



寛永頃の長崎(模式図)



【関連年表】

| 年号 | 長崎の町建に関する記事 | 奉行や町役人、キリシタンに関する記事 |
|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1571(元龜2) 1580(天正8) 1587(天正15) | 最初の6町が建ちはじめる 大村純忠、長崎をイエズス会に寄進する 豊臣秀吉、長崎を没収する | ○伴天連追放令発布される |
| 1592(文禄1) | 奉行所が本博多町につくられる 一の堀と「小堀」がつくられる | ●寺沢広高、長崎奉行となる ●村山等安、長崎代官となる ●高木、高島、後藤、町田の4家、町年寄となる |
| 1596(慶長1) | 二の堀、三の堀がつくられる(このとき「小堀」埋められる?) | |
| 1600(慶長5) | 囚獄を南馬町から桜町に移す 内町と外町の境を区画する堀がつくられる(慶長6年?) | ○「岬の教会」が建てられる |
| 1605(慶長10) 1608(慶長13) 1609(慶長14) 1611(慶長16) 1614(慶長19) | 外町が大村領から公領になる (この頃までには勝山町～桜町間の三の堀は通行できるようになる?) | ○ミゼリコルティアの教会が新築される ○サント・ドミンゴ教会が建てられる ○サン・フランシスコ教会、建築開始される ○4、5月にかけて長崎市中で信仰告白の行列行進、村山等安一家も参加する ○11月3日～8日にかけて、「岬の教会」が破却される。 ○11月12日～14日にかけて、サント・ドミンゴ教会が破却される ○11月15日～17日にかけて、サン・フランシスコ教会が破却される |
| 1615(元和1) | | ●大坂の陣終わる。村山等安2男フランシスコ神父、戦没 ●村山等安、徳川幕府より御朱印状を得る。3男忠安を台湾へ遠征に出すが失敗 ●末次平蔵政直、村山等安を貿易の不正で訴える ●末次政直、村山等安をキリシタン関連で訴える。等安ならびに3男忠安斬首 |
| 1619(元和5) | | ○ミゼリコルティアの教会が破却される(翌年、同地に大音寺が建つ) ●この頃、長谷川権六、長崎奉行となる ●末次政直、長崎代官となり、サント・ドミンゴ教会跡地に屋敷を建てる |
| 1663(寛文3) 1669(寛文9) 1672(寛文12) 1676(延宝4) | 寛文の大火 三の堀の一部が埋められる 三の堀の一部が埋められる | ●外浦町の高木屋敷焼失。作右衛門系高木家、浜町屋敷に移る ●末次平蔵茂朝、密貿易発覚のため流罪、末次家断絶 ●町年寄 高木作右衛門宗音、浜町屋敷から末次屋敷に移る ●高木彦右衛門貞親、浜町屋敷を賜る |
| 1680(延宝8) 1699(元禄12) 1700(元禄13) 1701(元禄14) | 二の堀の一部が埋められる 内町と外町の区別が廃止される | ●深堀騒動。高木貞親殺害される ●高木貞親の子貞尤、追放処分。宮内左衛門系高木家断絶する |
| 1739(元文4) | | ●御用物役 高木作右衛門忠興、長崎代官に任命される |

※年表中の●は主に奉行や町役人についての記事、○は主にキリシタンについての記事を示しています。